

郷土資料編（第十六回史跡めぐり）昭和四十二年三月三十一日

史跡めぐり資料

（第十六回松伏村大川戸編）

越谷市郷土研究会

松伏村大川戸

史跡めぐり資料

越谷市郷土研究会

(一)

○ 大川戸村

大川戸村は、大川戸郷とか大川戸庄とかと唱えられて来た。

「東鑑」所載、寿永二年(一一八四)正月三日の記事に武蔵国賜西・足立高部内大河土御厨ミヨ及建久三年(一一九二)十二月二十八日の伊勢太神宮御料・武蔵国大河土御厨ミヨ・更に建暦三年(一一二一)五月十七日の先次郎左衛門尉政宣所領・武蔵国大河土御厨内八条郷を式部大夫重清に賜ふミヨとあり、寿永建暦の記事によると当照は筒王部に属していたのであろう。

大川戸村は今も古利根川の傍にあつて八条村にも程近い。其の頃は大河土の地名は広い範囲に用いられており、八条もその内に属していたものと考えられる。

江戸よりは八里程、民家は二百二十六戸、東西十町、南北二十町余。東は上内川村、

西は赤沼村及び古利根川を隔て、筒王部大杉村南は松伏村、北は庄内古川を隔り、向い口下総国葛飾郡魚沼村である。

用水は、松伏溜井より引いている。
ここは、元々、葛飾の直轄領である。

○ 小名 清水畑 上新田・下新田・宿 新川・
大学 甚兵衛新田

○ 庄内古川 東北に流れる。幅二十間

○ 古利根川 西南の流界を流れる。幅八・九十間

○ 八幡社 村の鎮守で御朱印の社。築三石は慶安三年に賜わったという。当社及び香取社の伝説として、村氏庄右衛門が預りもつている巻軸がある。その中に古老の伝えとして八幡社及び香取社は建久元年の創立とある。他に沢のものもある。

○ 熊野社 これも鎮守也。慶安三年にやはり御

本印三石を賜っている。

当社も古い社であるが、しばらく神体が無かつたままであったので、元禄二年新らたに、神体を造立し、且つ、獅子頭を納めたという。他に

八幡社の末社である神明別当法蔵院や兼師堂
香取社 二、 稻荷社 二、 熊野社 二、
諏訪社、山王社、神明社、八幡社（社境内に
東永二年の碑あり。
又 八幡稻荷合祀社がある。

○ 地蔵院 新義真言宗・中尊地蔵・ 水神社。

○ 普門寺 那知山と号す。中尊不動

○ 妙楽寺 中尊不動。 釈迦堂

○ 観音寺 妙楽寺の末・天満山と号す。

中尊阿弥陀 天神社、荒神社

○ 大聖寺 香取山と号す。中尊不動

○ 西福寺 天照山と号す。

○ 観音堂 普門寺附。堂後に貞治二年の古碑あり。一基

○ 光厳寺 禅宗曹洞派。比企頼福田村城守寺の末。中尊兼師。境内に正安二年の古碑あり。

(以上 武蔵風土記稿による。)

MEMO

A large rectangular area with vertical dotted lines, serving as a memo or record space.

二 杉浦家所蔵 (徳川家康直筆坪割書)

廿五回	つばの内
一 回	家
二十回	つばねとあやいた
十二回	家
五 回	とほり道
十 五	といしまい

三 光巖寺所有

帰依佛塔 一基

銘「帰依佛」正堂「慈母一八メートル、名僧一山一尊が聖徳太子が錫の途次、自書したものと伝えられる。

昭和九年三月二日 埼玉県史蹟文化財に指定される。
一山一尊とは中国台州の人で、中国各地の禪

寺に修業して大知識となり、後で正安元年(一三九九)元の古祖より派遣されて、日本に來朝した。彼の鎌倉幕府は一尊疑疑つて伊豆の修禪寺に押し込めていたが、問もなく許され、鎌倉建長寺に住するようになる。

それより四覺寺に移り、正和二年(一三一二)秋には京都南禪寺に移り、正保元年(一三三二)七月・十一才で歿した。

一尊は鎌倉在任中、仙台松島の景勝を訪ねて奥州に旅した。光巖寺の板碑もその時のものといわれる。

その他 一尊の歿した碑ではないかと云われるものに
北宮命額伏村上赤岩源光寺にある「帰依佛塔」の碑

北宮命額吉川町木尻清淨院の「南兄佛」

茨城県 結城市 東禱寺の「南兄佛」

茨城県 結城市塔ノ下華嚴寺の「歸依世尊」

などが発見されていると云われる。

この「南兄仏」「歸依仏」「歸依世尊」の語源は禪宗で常に唱えられている「三歸依法語の↓

南無歸依仏 南無歸依法 南無歸依僧

歸依佛無上尊 歸依法離塵尊 歸依僧

和合尊 歸依佛竟 歸依法竟 歸依僧

免」の語源から出たといわれる。

(尚三 支談 第一四巻第二号)

(四) 村社八幡社境内 大イ子ヨウ 一本

幹のまわり 八三メートル

樹高 十八メートル

指定時 昭和七年三月三十一日

埼玉県より天然記念物

として指定された。

昭和四十三年三月三十一日

第十六回史跡めぐり記録(大川戸)

才十六回 史蹟めぐり

日時 六月二十五日(日) 午前十時二十分

越谷駅 岩岩視経由大宮行バスにて(末田下車)

場所 末田・金剛院 大戸・才六天神社

会費 三百円(昼食・バス代)

主催 越谷市郷土研究会